

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	宮崎県	市町村名	大学名
派遣日	令和2年11月2日(月曜日) 13:30~16:00 日程等(別添実施要項参照)		
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 派遣    /    遠隔		
派遣場所	宮崎市教育情報研修センター		
アドバイザー氏名	福島大学 准教授 中川 祐治		
研修受講者	県内の日本語指導支援に当たっている支援員25名 宮崎市教育員会、県教育委員会の指導主事等		
研修内容	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 講義</li><li>1 「外国人児童生徒」とは</li><li>2 外国人児童生徒等が直面する課題</li><li>3 外国人児童生徒等の現状と課題</li><li>4 分野ごとの施策</li><li>5 外国につながる子どもの言語能力</li><li>6 修正モデル</li><li>7 ライフコースを見据えた支援</li><li>8 コース設計(プログラムの組み合わせ例)</li><li>9 サバイバル日本語</li><li>10 日本語基礎</li><li>11 文型指導の例</li><li>12 技能別日本語</li><li>13 作文指導の例</li><li>14 日本語と教科の統合学習</li><li>15 「学習言語」の難しさを考える</li><li>○ 演習</li><li>「千年の釘にいどむ」のリライトにいどむ</li></ul>		
派遣者からの指導助言内容	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 何気ない日本語であっても支援を受ける帰国・外国人児童生徒の立場に立って支援に当たる必要がある。</li><li>○ 日本語を支援(文化や習慣)することと同時に、母国の文化や習慣を理解し、日本との違いや日本の考え方についても教えていく必要がある。</li><li>○ 興味・関心を引くための支援を行うと同時に、指導に当たる教師との連携を密に図って、児童生徒の学習が円滑に進むように支援をしていく必要がある。</li></ul>		
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<ul style="list-style-type: none"><li>○ まず、外国人児童生徒等に対して何を支援すればよいかということに対して、自信を持って支援にあたることができるようになっている。</li><li>○ 個別の指導計画や支援計画を作成することに大切さや実際に作成するに至り、各学校ごとに整備することができた。</li><li>○ 次年度は、個別の指導計画や支援計画を市町村教育委員会及び県教育委員会への提出を義務づけて、児童生徒の習得の状況を確認していく。</li></ul>		

1枚にまとめる必要は、ありませんので、詳細に記載願います。なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。